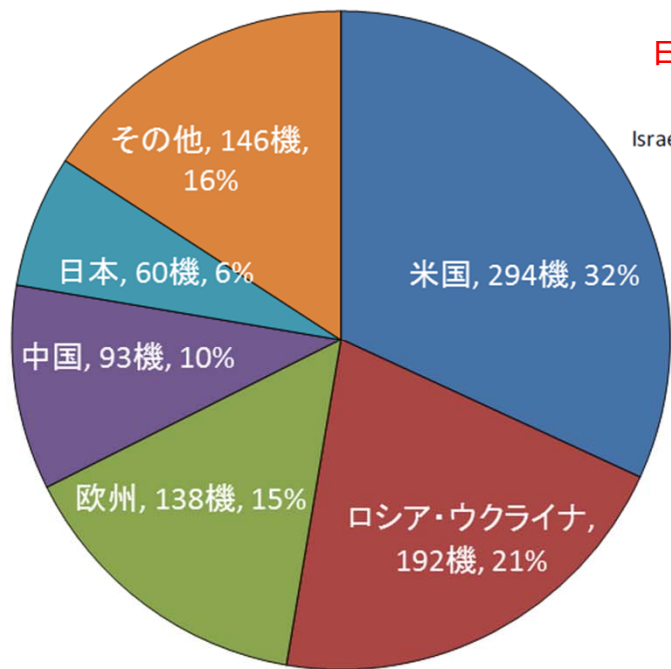


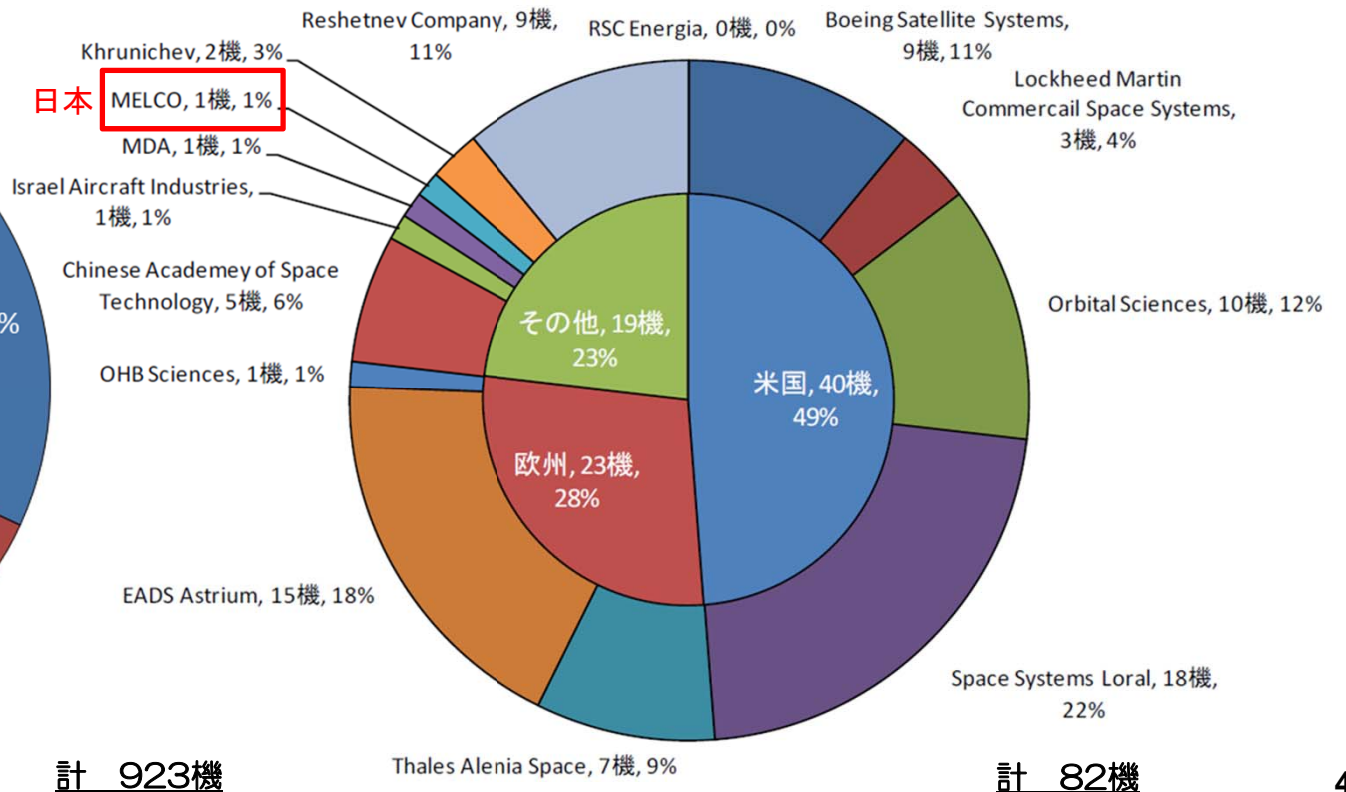
衛星分野の国際動向と日本の位置付け

- 世界の衛星打上げ実績は年間平均約92機。日本の打上げ実績は世界のわずか6%。
- 世界の衛星の商業利用の大部分を通信・放送分野が占めるが、日本の産業競争力は低く、これまで日本企業が受注したのは4機。なお、地球センサー、太陽電池パドルなどの一部の機器レベルでは、日本の技術が海外衛星に広く採用されているケースもある。
- 測位・地球観測分野では我が国の衛星数は中国やインドより少ない。

世界の人工衛星打上げ実績(2002~2011年)



商業静止衛星企業別受注残・受注機数シェア(2010年)

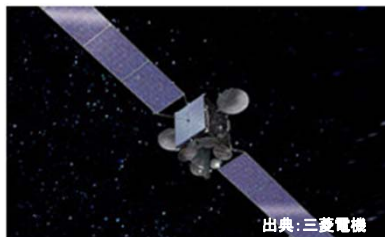


計 923機

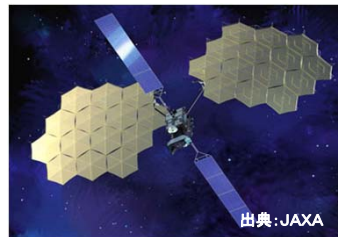
計 82機

衛星分野の国際動向と日本の位置付け ～通信・放送分野～

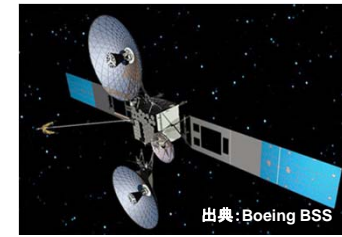
- 通信・放送衛星は静止衛星が主で、多チャンネル(多数の中継器搭載)かつ長寿命(10～15年)を志向するため、大型化傾向。
- 我が国の衛星製造企業である三菱電機が、技術開発を通じた実績の積み重ね等を背景に、商業通信衛星を一昨年までに2機(国内1機(スーパーバード7号機)、海外1機(ST-2))、昨年からはインフラ輸出を官民を挙げて展開した結果、トルコから2機(Turksat-4A、-4B)を新たに受注。
- 我が国の衛星通信・放送事業者であるスカパーJSAT(アジア最大)は16機(うち1機が三菱電機製)、放送衛星システム社は5機の衛星を保有する(2012年7月現在)。



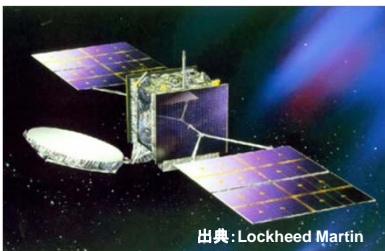
通信衛星 スーパーバード(民間衛星)
データ通信など



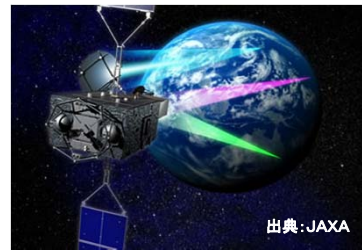
技術試験衛星 きく8号(日本)
大型展開アンテナ等の技術で携帯端末による移動体通信の実現



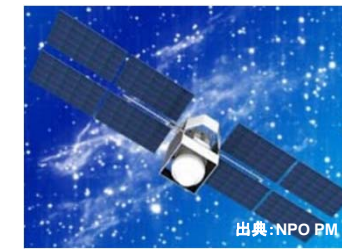
追跡データ中継衛星TDRS(米国)
ISSやスペースシャトルとの通信に使用



放送衛星 B-SAT(民間衛星)
衛星放送



超高速インターネット衛星 きずな(日本)
国内及び国際的なインターネット接続の超高速化、デジタルデバイドの解消など



メディアン通信衛星(ロシア)
モルニア軌道上の新型通信衛星

衛星分野の国際動向と日本の位置付け ～地球観測分野～

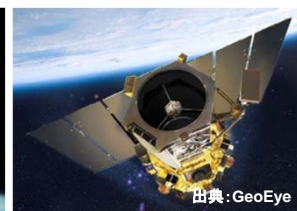
- 地球観測衛星は、安全保障、地図作成、災害監視、資源探査、気象観測等の目的毎に開発・利用。
- 各国とも公的利用が中心だが、欧米では衛星データ利用の拡大と商業化を前提として、アンカーテナンシーやPPPなどにより、民間の活力を活用した方策が取られている。
- 我が国では情報収集衛星、陸域観測技術衛星「だいち」、静止気象衛星「ひまわり」、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」などが政府出資により開発・運用。高分解能の光学衛星ASNAROにおけるPPPなど、官民連携による取組も拡大しつつある。
- 我が国は、宇宙センターの整備や人工衛星(レーダ衛星)調達に関する円借款の供与に関する交換公文をベトナム政府と締結(平成23年10月)。2017年に1号機、2020年に2号機を打上げ予定。
- 衛星データの利用拡大を図るため、衛星データ利用促進プラットフォームの整備を計画中。
- 現在、世界商用観測データの市場は約1,000億円(Euroconsult調査)であるが、国内市場は約100億円前後。今後、官民連携によるリモートセンシング技術の開発・運用の在り方を検討する必要。



陸域観測技術衛星
「だいち」(日本)
温室効果ガス観測
技術衛星「いぶき」
(日本)



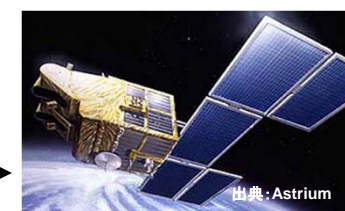
出典: JAXA



出典: GeoEye

GeoEye-1
(米国)

SPOT-5
(欧州)



出典: Astrium